

# 平成26年度 事業計画

## 1 環境認識及び基本方針

### (1) 伊勢志摩地域としての方向性

平成25年、第62回式年遷宮の最重要祭事「遷御の儀」を10月に迎えた伊勢神宮参拝客数は約1,420万人を数え、延数ではありますが伊勢市では日本人の10人に1人に相当する来訪客を迎えたと推測されます。伊勢志摩地域全体の入れ込み客数の確定が待たれるところではありますが、江戸時代のおかげ参りを思わせる参宮への関心の高まりは、必然的に伊勢志摩地域全体への観光客数の増加へと波及し、近年においては稀な経済効果の拡大をもたらしたことは間違いないと思われま

す。今回の遷宮効果の特徴としては、外宮の参拝客と外宮参道の賑わい及び電車利用客数に大幅な伸びを示した点、エリア別では首都圏及び遠隔地からの客数が顕著に増加した点、情報の発信・拡散については各種メディア媒体特にテレビにおいて報道も含め持続的・全国的に取り上げられ大きな話題性を呼んだ点、とりわけ遷宮と神宮についてその歴史・文化・伝統に視点を置いた内容が多く、伊勢神宮の本来的な価値が広く伝わり共感を呼んだこと、旅行業界においては個人から団体に至るまで遷宮と伊勢志摩を目的地とした各種旅行商品が幅広く流通し販売された点、そして何よりも神宮司庁、伊勢市及び遷宮対策関係団体を始め、当機構や伊勢志摩の産官が一体となり数年に亘り遷宮に向けた取り組みを展開、上記の流れを創ってきたことにより相乗効果を発揮した点等が挙げられます。

こうしたことから全国観光地の中での選択と集中が行われ、伊勢志摩地域の一人勝ちと言われるほどの観光客の増大が実現されました。

しかし、これは平成25年に限定された特需であると言わざるを得ないのも現実であり、また一方では交通対策やサービス品質の向上等改めて課題も浮き彫りになりました。

伊勢神宮が伊勢志摩地域のゆるぎない「世界ブランド」であることの地歩を固めたとはいえ、次の遷宮に至る20年間の特に前半の10年間に遷宮という突き抜けた事象が無くとも、伊勢神宮の発信を継続させることで「年に一度は神宮参拝」のムーブメント環境を整え、伊勢神宮参拝と前後の伊勢志摩旅行への誘導を図る必要があります。

それには、伊勢志摩地域の観光地としてのポテンシャルを高め、伊勢神宮に並ぶ観光資源のブランディングとその戦略的な発信・誘客力の強化に取り組み、常にマーケットに訴求していくことが求められます。

平成25年度は、「第1期伊勢志摩観光振興プラン」の最終年度になるため、平成26年度から平成30年度までの「第2期伊勢志摩観光振興プラン（以下本計画という）」の策定を進めてきたところですが、その計画の中では共有理念・目的を「観光立圏・伊勢志摩経済圏の活性化」とし、基本戦略の中では「伊勢志摩ブランドコンセプト」を明らかにしています。

具体的なブランドコンセプトは4点、「神宮文化」「御食つ国の食文化」「国立公園としての自然」「海女文化」といたしました。

今後の当機構の事業展開については、本計画の理念・目的及び基本戦略に基づき計画・実施・検証していきたいと考えます。

## (2) 平成26年度事業について

平成26年度事業計画及び予算は本計画の1年目にあたる年度となりますが、本計画策定取りまとめと並行しながら事業計画及び予算編成を進めてきた関係上、本計画の全てが反映されていない部分もありますが、その準備段階及び初期スタート段階と位置づけ各種事業の展開を推進していきたいと考えます。

また、今年度を含め今後各地で予定されている観光関連プロジェクト（U S Jハリーポッタープロジェクト、北陸新幹線金沢延伸等）は伊勢志摩地域に大きな影響を及ぼすと予想されるため、その動向を注視しながら、本計画の基本戦略の中でも特に当機構にその役割を求められる「情報発信・誘客力の強化」及び「協働推進体制の強化」に重点を置き、情報発信体制の強化、インバウンド事業の更なる充実と連携、神宮文化を全面展開し「年に一度は神宮参拝」をコンセプトにした伊勢志摩キャンペーンの展開、学生団体誘致事業の推進等を積極的に進めていきます。

尚、特に予算化はされていませんが、新規大型集客イベント開催誘致に関連する体制づくり、国際会議等のM I C E誘致組織の新たな確立、東京オリンピック・パラリンピックや三重国体に向けたスポーツツーリズムの推進による新規マーケットの開拓等の取組みにも積極的に力を傾注していきます。

併せて、引き続きメインマーケットである関西・中部エリアの持続的・安定的な客数確保に向けた取組み、三重県営業本部と連動した首都圏及び遠隔地マーケットへの効果的な事業や、三重県が実施する「三重県観光キャンペーン」との連携を図りながら、相乗効果を発揮する事業として展開していきます。

## 2 伊勢志摩地域の経済が活性化することを目的として行う観光振興事業 【「公益目的事業1」】

### (1) 観光情報の発信事業

伊勢志摩地域への効果的な誘客のため、行政区域の枠を超えた広域でのスケールメリットをいかした効果的な情報発信を図るため、以下の事業に取り組みます。

#### ア TV番組による情報発信

三重テレビ放送「ええじゃないか。」の制作に協力し、地域資源の紹介、旬の観光情報等を発信することで、全国（三重テレビ放送他7局で放送、全国世帯の約48%の約2,517万世帯をカバー）からの誘客促進を図ります。

平成26年度は誘客促進活動事業で伊勢志摩周遊企画編（2回）を加え、15回の放送を予定しています。

《3市（伊勢市・鳥羽市・志摩市）1町（南伊勢町） 特別負担事業》

#### イ パンフレットによる情報発信

観光圏整備事業（平成20年度）で作成したガイドブックの日本語版を一部修正のうえ増刷し、観光情報の発信に活用します。また、イベント等での大量配布用のダイジェスト版を作成します。

#### ウ インターネットによる情報発信

平成23年度にリニューアルしたインターネットホームページのコンテンツを当機構の会員自ら入力することによる情報の提供と合わせるにより、より一層の充実を図り、地域内の周遊促進につながる「旅前情報・着地情報」の発信を行います。また、ツイッターやSNSなどのコミュニケーションツールにも引き続き取り組むことで、「伊勢志摩に行きたい」と感じさせる情報発信の強化を行います。

#### エ 各種広告宣伝・協賛

パブリシティ効果を図るため、旅行雑誌、業界紙、新聞等へ広告協賛し、伊勢志摩地域全体のPRを実施します。

#### オ その他

事務局では電話やEメール等による一般消費者からの観光情報等の問い合わせに対応するとともに、求めに応じてパンフレット等各種資料を無料で送付します。

### (2) 観光客及びコンベンションの誘致促進及び受入体制の整備に関する事業

伊勢志摩地域全体への観光入込客の増大を図るため、地域で一体となって観光客やコンベンション等の誘致を行います。具体的には以下の事業に取り組みます。

#### ア みえ・美し国エクスプレス運行支援

中京圏からの誘客促進を図るため、「みえ・美し国エクスプレス」バスの運行を支援します。なお、更なる乗車人数の増を目指した取組みをすすめ、サンセット予算を導入することで段階的な予算削減を行います。

#### イ 展示会等への出展

大都市圏並びに各地の集客施設等で開催される各種のイベント等に積極的にPRブースを出展し、発地側の消費者に伊勢志摩の魅力を直接伝え、当地域への誘客促進を図ります。

また、今年度も全国各地のイオンモールにて開催される「三重県フェア」に各市町と共同出展し、旬の地域情報の発信と体験プログラム等の提供により、地域イメージの向上に努めます。

なお、今年度は、中部国際空港セントレアにて開催していた「松阪・伊勢志摩観光物産展」の実施内容を見直し、遠隔地（飛行機利用者）からセントレアを玄関口とした伊勢志摩の旅の提案を行い、直接的な送客を目指した活動を展開します。

#### ウ コンベンション開催の誘致活動及び開催支援

伊勢志摩地域での各種コンベンション開催を目的として、関係先への誘致活動及び各種助成制度を実施します。

特に今年度からは、ポスト遷宮対策として以下の3事業を重点的に取り組みます。

##### ①伊勢志摩リゾートMICE推進協議会（仮称）の展開

国際会議誘致と国内団体需要の創造を目的とした伊勢志摩リゾートMICE推進協議会（仮称）を設置し、MICE誘致の戦略的な取組みを推進します。

##### ②スポーツツーリズムの推進

平成32年の東京オリンピック・パラリンピック、平成33年の三重国体の開催等を見据え、伊勢志摩地域のフィールドや環境を活かし、スポーツをコンテンツにした各種大会や合宿誘致の取組み強化を図り、スポーツツーリズムの確立・推進を目指していきます。

##### ③大型集客イベント事業計画との連携

数年後に予定される大型集客イベントの誘致、開催に向け関係機関・団体との連携を進めます。

#### エ 外客誘致の推進

三重県や中部広域観光推進協議会、昇龍道プロジェクト等と連携しながら、伊勢志摩地域の観光資源を活用し、海外旅行会社等への提案を行います。

また、外客の誘致にあたっては伊勢志摩単独ではなく更に広域での連携が求められることから、「伊勢志摩地域・鳥羽市外国人観光客誘致促進協議会」、「三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会」、「三重県外国人観光客誘致促進協議会」に参画し、誘致活動を実施します。

特に今年度からは、入れ込み客数の実態に関する調査事業、さらに外国人観光客に分かりやすく正確な情報を提供するための観光品質認証基準の検討・研究に取り組みます。

#### オ 美しく国伊勢志摩観光活性化対策事業

伊勢志摩地域内での観光客受入体制整備における取組み成果を実際の誘客につなげるため、「旅行市場での流通ルート」を確保します。また、商品化後は発地での認知度向上を図って誘客を促進する取組みを行います。

#### カ 誘客促進活動事業

会員及び関係機関と協働で誘客促進を図るため、各種誘致活動を実施します。

### (3) 伊勢志摩フィルムコミッション事業

映画、TV、CM等の撮影を誘致及び支援することにより、地域の魅力の発信及び再発見による観光入込客の増加に繋がります。

#### ア 撮影誘致支援活動

制作側からの要望や問い合わせへ迅速に対応し、伊勢志摩地域及び県内での撮影に関する情報提供の他、シナハン、ロケハン、ロケ等への支援を行い、撮影の誘致に努めます。また、

県内の他FCとも連携し、円滑な撮影支援を行います。

#### イ 広報活動

伊勢志摩フィルムコミッションの活動について、制作会社及び地元での認知度向上と、エキストラやサポートスタッフの登録者数を増加させることを目的として、映像関連イベントに協働・参画します。

#### ウ フィルムコミッション事業推進委員会との連携

伊勢志摩地域でのフィルムコミッション事業の円滑な実施を支援するために地域の官民で組織されている伊勢志摩フィルムコミッション事業推進委員会との連携に努め、体制強化と機能性の充実を図ります。

### (4) 観光情報の調査研究及び観光客の満足度の向上に関する事業

観光客へのおもてなしを向上させ、伊勢志摩地域で市町の枠・官民の垣根を越えて域内の調整、連携及び観光客の実態把握を行います。

#### ア おもてなし向上及び観光客の実態調査

当機構に寄せられた来訪者からの苦情等の情報は、関係者へ情報共有を行い再発防止を図るとともに更なるサービスの質の向上を目指します。

また、伊勢志摩地域を訪れる観光客の動向と実態を調査するため、会員の協力を得て域内観光地で観光客へのアンケート調査を実施します。調査結果は今後の広域観光施策の基礎資料とするとともに、機構のホームページでも公開します。

### (5) 観光産業及び観光文化の振興と人材の育成に関する事業

伊勢志摩の各地域が一体となった集客交流が円滑に進む体制の整備を通じて地域の観光産業の振興を図ります。また、地域の観光事業者及び観光客へのおもてなしに関心を持つ一般の方などを対象に、研修やセミナーを実施することで、人材の育成を図ります。

#### ア 美し国伊勢志摩受入体制整備事業

平成25年12月ユネスコの世界無形文化遺産に登録されたことで注目される「和食文化」。「御食つ国」としての食文化を誇り、食の神様である「豊受大御神」を祀る伊勢志摩は、まさに和食文化の原点です。和食のユネスコ登録と連動した和食検定のセミナー及び団体受検を継続して開催し、和食の伝統文化・歴史について学ぶ機会を作ります。同時に、素材として提供する伊勢志摩地域の食材及び食の歴史・文化等の知識を深め、サービスの最前線に従事する方々の伊勢志摩ならではのおもてなしやサービスに活用するため、地域全体のホスピタリティを向上していく事業を展開します。

#### イ 着地型ニューツーリズムネットワーク構築サポート事業

行政主導ではなく民間ベースを基本としたビジネスモデルを目標として、着地型ニューツーリズムのネットワークを構築していく事業をサポートしていきます。この事業サポートにより実質的な観光事業者同士の交流を図り、ビジネスとして“伊勢志摩地域が潤う”仕組みの構築を目指します。

### (6) 緊急雇用創出事業 ※要望中

緊急雇用基金事業による人材を雇用、育成し、観光展、WEB、各種イベント等で伊勢志摩地域の更なる情報発信を図ります。

#### (7) 伊勢志摩キャンペーン事業（特別会計事業）

式年遷宮で注目が集まったこの契機を逃さず、さらなる伊勢志摩地域のブランド化、域内周遊、宿泊促進を図るため、せんぐう旅博に代わる広域観光キャンペーンを新たに実施します。

同時に「三重県観光キャンペーン」との相互連携を図り、高い相乗効果を発揮していきます。

#### (8) 伊勢志摩学生団体誘致事業（特別会計事業）

学習テーマを「～自然・歴史・文化から学ぶ～ 美し国・環境学習」とし、機構内に設けた「伊勢志摩学生団体誘致委員会」の委員（伊勢志摩地域の観光及び宿泊施設等）が、伊勢志摩への教育旅行の提案や体験プログラムづくり等に取り組み、教育旅行の差別化を図ります。また、全国の学校や教育委員会、教育旅行取扱旅行会社等を対象として情報の発信及び誘致活動を実施します。

### 3 管理部門

#### (1) 組織体制の強化

##### ア 事務局体制

伊勢志摩広域観光戦略推進の中核組織としての役割を担うため、円滑な組織運営及び事業推進を図ります。また、遷宮後次の20年間までの持続的な観光地づくりの中で、益々増える諸課題に対し対応できる組織としての確立を目指していきます。

##### ■事務局職員（13名）の内訳

伊勢市からの派遣職員	2名
鳥羽市からの派遣職員	2名
志摩市からの派遣職員	2名
南伊勢町からの派遣職員	1名
三重県職員（観光誘客課 伊勢市駐在）	1名
三重交通(株)からの派遣職員	1名
近畿日本ツーリスト(株)からの派遣職員	1名
臨時職員	3名

##### イ 専務理事の配置

これまでの議論を踏まえ、公募による専務理事の配置に関して再度検討します。

##### ウ 会員の拡大

継続的に伊勢志摩広域観光振興を図るため、会員相互及び事務局で新規会員の確保に努め、機構の安定的な組織運営及び事業規模の拡大に努めます。

##### エ 活動状況の広報

当機構の活動が地域内のみならず会員にも十分に周知されていない現状を改善するため、昨年に引き続き活動状況等を掲載した広報誌を年2回発行します。この広報誌は会員の他、関係団体等にも配布するとともに、新規会員勧誘時の資料等としても活用します。